



虹ヶ丘

https://kawasaki-edu.jp/2/511_nizigaoka/

虹ヶ丘小学校
ホームページ ⇨



今、言葉があふれている

校長 井上 恵子

子どもたちの書き初めが廊下に展示されています。「一人一人が好きな言葉を書く書き初め」に取り組んで3年です。1・2年生は硬筆、3生以上は毛筆で、自分で決めた言葉を書きました。それには文を添えています。どの子どもの文字も文章もすばらしいです。「そえる文」にはその子らしさが表現されています。読むと、「この子はこういうことを考えていたのね」とわかります。誰一人同じものはありません。一人一人が異なるように。だから子ども理解につながるのです。作品が完成するまでの学習過程や指導について知っていただくことで、虹ヶ丘小学校でめざしている教育を理解していただけるのではと思っています。

書き初めの言葉を考えるにあたっては、まず、どの学習が生かせるかを確かめます。初めての毛筆の書き初めに取り組む三年生は、基本の点画「横画」「たて画」「おれ」「はらい」「点・曲がり」

「結び」を使った文字から言葉を選びます。四年生から「2つの部分」からできた漢字が増え、五年生は「しんによろ」を使った漢字、さらに六年生は「三つの部分」からできている漢字も増え、選べる言葉が増えていくという具合です。文字数は、四文字か五文字です。

言葉は、「好きな言葉」を選びます。好きな言葉とは、心に残したい大事な言葉、自分を向上させるための励みにする言葉などです。つまり、自分にとって価値のある言葉です。そのため、好きな言葉への思いを「言葉にそえる文」に、しっかり表現できることを大切にしています。

好きな言葉を自分で考えた後は、友達と学び合います。自分の考えをたしかにするために3人組で話し合いをします。「三人寄れば文殊の知恵」です。ここでは、「話に反応しながら聞く」「感想や質問をもちながら聞く」「自分の経験と結びつけて聞く」「良かった表現や文の内容を伝える」「わからないことを質問する」という「よい聞き手」になることもめざしています。次に、クラスみんなで言葉を磨き合います。画用紙短冊に書いた言葉を黒板に並べて、質問をしたり、よさを伝え合ったりします。こうして書き初めの言葉が決まっていきます。

次は、「そえる文」です。ここでも、まずは自分で考えます。子どもが書いた文を先生が読んで、質問をしながら子どもの考えを引き出していきます。その時に大切にしているのは、子どもと先生の「対話」です。よいところを認め、書き加えるともっと良くなることの助言や提案をしていきます。その時のキーワードは「・・・を加えると、〇〇さんらしい文になりますよ。」「〇〇さんにしか書けない文にしましょう。」です。最後に、その言葉に対する思いをより分かりやすく伝えられるようにまとめ、価値のある言葉にそえる文を、清書します。これは6年生のそえる文です。その子らしさが表現されていますね。

新たな道へ

中学校では、教科の数が増え、勉強の難しさが変わります。また、好きな野球は、レベルに違いがうまれます。

勉強面でも、野球面でも、感じたことのない世界に行くけれど、その中でも、強い気持ちをもって過ごしたいです。

この児童は、最初に自分で考えた言葉「心機一転」を「新たな道へ」に変えました。「『心機一転』だとこれまでの生活はあまりよくなかったような印象になり、ちょっとあなたには合わない気がします。」など、先生との対話により「新たな道へ」になったそうです。このような学習を経て書き初めの作品が出来上がります。

そえる文に表れている子どもたちの思いを感じていただければ嬉しいです。